

平成29年度 第2回豊橋市総合教育会議議事録要録

平成29年9月7日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第2回 総合教育会議	
日 時	平成29年9月7日(木) 午後3時05分～5時30分
場 所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	佐原 光一 市長, 山西 正泰 教育長 朝倉 由美子 教育委員, 高橋 豊彦 教育委員 芳賀 亜希子 教育委員, 渡辺 嘉郎 教育委員
事務局	加藤 喜康 教育部長 駒木 正清 教育監 山本 誠二 教育政策課長 木下 智弘 学校教育課長 角野 洋子 教育政策課主幹 鈴木 伸幸 総務部長 稲葉 俊穂 財務部長 牧野 正樹 財政課長 大林 利光 市民協創部長 河合 幸子 市民協働推進課長 小久保雅司 市民協働推進課主幹 ほか 5名 全16名
その他	傍聴人 0名

議 事 日 程

市長あいさつ

協議事項

- 1 人口減少化に対応した学校のあり方について(基本方針の策定に向けて)
- 2 豊橋市未来応援奨学金について
- 3 今後の協議事項について

情報提供 …NPO法人 ゆずりは学園について

連絡事項 …次回開催日程 ・平成29年12月14日(木) 14:00～

(市長)

初めに, 1 人口減少化に対応した学校のあり方について説明をお願いします。

協議事項

- 1 人口減少化に対応した学校のあり方について(基本方針の策定に向けて)
 - 教育政策課長 協議事項について資料説明

(市長)

小中学校のあり方について, ご意見がありましたらお願いします。

(高橋委員)

基本方針策定のためのポイントが大切なことはよくわかります。さらに、実際に進めていく方法がはっきりとわかるとよいです。例えば、小・中学校区別児童生徒数の将来予測では、児童生徒数の減っていく校区がいくつかあります。地域と学校の関係者が話し合い、まずはその要因を探り、次に地域に人を呼び込む方法を考える等、学校存続に向けて具体的な策を講じていくことが重要だと思います。

「地域」というキーワードで、どちらの学校に行くか行かないかというだけの議論になり、子どもとその保護者が翻弄されていた時期を経験したことがあります。現在、子どもにとってよりよい教育環境を目的としているのか、自分たちの町内の立場に重きをおいて学校のあり方を議論しているのかははっきりしない部分もあります。

(市長)

学校のあり方について話し合いをするにあたって、町内会、子ども会、お宮の氏子会、学校との関係が複雑に絡み合い、なかなか難しい問題がありそうです。

(高橋委員)

子どもにとって大切な学校に関する議論が、蚊帳の外になってはいないだろうか。

(市長)

児童生徒数が増加した時期がありました。当時は、町内会を割らないようにしたため、国道1号線を横断して通学するような区割りになってしまったところもあります。子どもの安全を最優先に考えて見直すことができなかった。

(高橋委員)

複式学級は避けたいです。固定化された人間関係の中で教育を進めることは避けたい。したがって、少人数化にともない施設の集約が必要になってくると思います。

(市長)

経営効率の面からいうと、施設の集約を進めた方がコスト的にも人間のパフォーマンス的にも効率よくまわります。逆に児童生徒数が少なすぎると、学習効果も上がりにくくなります。

同じ小規模校でも、戦後発足した小学校と人数が急増したときにできた新設小学校とは分けて考えたいと思っています。コミュニティーの最小単位は、もともとある小学校区なので、ぜひ学校を残したいと思います。

(渡辺委員)

視点をかえます。最近では電子会議ができつつありますが、これからの学校教育において、これまでとは違う形の授業のあり方が考えられていくのでしょうか。

(市長)

小規模校の学習環境の確保策の一つとして、次のことをチャレンジしようと思っています。小規模校同士で、体育や音楽の授業を集まってやる方が楽しいし学習効果が上がるはずです。

その一方で、国語や算数は少人数でもよいが、インターネット回線を使うことで、同じ話題について多くの人の意見を聞いたり話し合ったりする環境を設定できるため、有効であると考えます。

(朝倉委員)

複式学級と統廃合について、子ども目線で考えた場合のメリット（デメリット）は何が考えられますか。また、今後どこに主眼を置いて検討を進めていく予定ですか。

(市長)

どちらも生かせる仕掛けがないだろうかと考えています。例えば、1時間目は自校で学び、2～4時間目は他校へ移動して合同授業をします。移動方法として、企業所有のバスをシェアするなどしたいと考えています。コミュニティーの最小単位として、学校を残すことを考えていきたいと考えています。

(教育長)

今、複式学級になったときに、豊橋市内にきちんとした複式授業のできる教員はほとんどいないと思います。以前、3～4年生の複式授業を参観しました。教師が3年生児童に指示を出してから、教室の反対側に移動して4年生児童の指導をしていたのですが、教師が移動した途端に3年生児童の集中力が切れていました。

全国的にも複式学級を指導できる教師が年々減ってきています。なぜなら、複式学級での指導は、高い指導技術が必要となるからです。

(朝倉委員)

複式学級になった場合、学びに興味のある子の集団ならばよいのですが、発達に障害のある子たちがいる場合に、一方の学年ではきちんと勉強をしており、他方では騒いでしまうことも考えられます。このような場面には、先生が指導に入らざるを得なくなり、2倍のストレスがたまるのではないのでしょうか。

(市長)

複式学級でやらなくて済むように、教員の配置をすることができないだろうか。仕組みを考えたいと思っています。

(教育長)

複式学級になっても数年後に単式学級に戻る可能性があるのですが、市長が言うような仕組みを作ることは、なかなか難しいと思います。

(高橋委員)

子どもにとっても教員にとっても、学習への対応以上に環境の変化に対応する方が、ストレスが高くなってしまわないのでしょうか。

(市長)

今の考えでは、小規模校で合同授業をする場合の移動方法は、田原市や新城市のようにバスを出すしかないのではないのでしょうか。

(高橋委員)

今後、安全性確保のためにインフラ整備は必要になってきます。

(朝倉委員)

お話をうかがっていると、複式よりも統合の方が、児童生徒や教員にとって、よりよいのではないかと思います。移動については、町内にバスステーション的な場所を作れば安全で、保護者や地域の方々も安心ではないのでしょうか。

(市長)

子どもたちは、通常どおり班別で現在の学校に登校し、朝の会や健康観察をしてから、バスで移動する方がよいと考えています。なかには、自宅の前で子どもをバスに乗せてくれた方がよいという保護者もいると思いますが、現実的には難しいだろうと思います。

(教育長)

先ほども言いましたが、複式学級が見えた時、豊橋市できちんとした授業のできる教師は、ほとんどいません。複式学級の授業を参観すると、この意味がよく理解できると思います。

現存する校舎の改修について、何年でどのくらいの費用がかかるかなどの情報を、少しでも早い時期に地域に示し、話し合いをしていくべきだと思います。

(市長)

児童数確保に向けて、例えば、八町小学校にインターナショナルクラスのようなものをつくって、市内全体から、子どもが通ってくるようにしたらどうだろうかという意見もあります。

(高橋委員)

実際に、豊橋市内において、インターナショナルスクールの需要はあると思います。

(市長)

カリキュラムの組み方や教員配置の見通しが立たないので、実現することは難しいのが現状です。今後、特色ある学校作りが大切になってくるだろうと思います。

(芳賀委員)

以前、複式学級を参観したことがありました。少人数のため、一見目が行き届きそうに感じましたが、実際のところは違っていました。

自分からやろうとする集団でないと、複式学級での授業は難しいと感じました。

(市長)

1校あたりの標準的なコスト（学校維持にかかる費用のめやす）の算出はできますか。

(事務局)

算出することはできます。

協議事項

2 豊橋市未来応援奨学金について

■教育政策課主幹 協議事項について資料説明

(市長)

確認したいことやご意見ありましたら、お願いします。

(高橋委員)

八戸市の給付金額が高い理由は何でしょうか。また、面接の内容はどのようなものなのでしょうか。

(事務局)

面接は審査会で実施しています。個人的意見として、八戸市の給付金については、生活費または学費を補う等、制度設計の段階において考え方の違いによるためだと思えます。なお、給付対象者には、後々地元に戻ってくることを義務づけてはいません。

(渡辺)

JASSOの給付型奨学金と貸与型奨学金で給付額は違いますか？

(事務局)

JASSOは、今年度から給付型奨学金の制度を始めました。なお、貸与型奨学金の金額は、個人で選択できる制度設計になっています。

(渡辺委員)

貸与型給付金は収入の高い人たちが借りています。非課税世帯（年収250万くらい）では、生活費を出せないのではないのでしょうか。25,000円の給付では暮らしていけないから、応募をしないのではないのでしょうか。

(市長)

給付型奨学金の受給者の多くは貸与型と併用しています。今後の制度設計において、人数より額を増やした方がよいという考え方もあり、悩ましい面もあります。

(渡辺委員)

豊橋市未来応援奨学金が定員に満たないということは、この制度に魅力がないとも考えられるので、給付額を上げた方がよいと思います。

(事務局)

本市奨学金制度が周知徹底されていなかったという反省から、今後は、高校の入学説明会で、保護者全員に募集要項を配付することを考えています。

(教育長)

熟慮して立ち上げた制度なので、当面は現行どおりの制度で様子を見ていきたい。まずは、周知方法を検討すればよいと思います。

(芳賀委員)

25,000 円の給付があれば、学生の経済状況は大いに助かります。保護者は非課税世帯であることを子どもに隠していることもあるので、周知方法を熟考したいと思います。

(市長)

こういうシステムがあるから大学に行かせてほしい、このようになることが理想です。

今年度は、JASSOの行方を見守りながら、現行制度のまま様子をみましよう。しかしながら、入学手続きのときにちらしを渡すなど、周知方法の見直しを行うこととします。

3 今後の協議事項について

教育政策課長 資料説明

情報提供

- ・ NPO法人 ゆずりは学園について

連絡事項

- ・ 次回開催日程

平成29年12月14日(木) 14:00～